

# 発信し続けてきた動物園

**大** 森山動物園には現在、企画広報担当があり情報の発信等  
を担っています。この担当ができたのは2002年でした。  
市役所には広報広聴課という専門部署がありますが、一部署  
に広報担当を配置したのは極めて異例と言えます。その経緯  
と活動の歩みを振り返ります。

展示内容の充実が進み、ソウ  
とキリンの展示を間近にした  
1990年頃は大型動物舎の工  
事も進み、園の成長を感じて  
いたスタッフはどこか奮い立っ  
ていた時代で、今の動物園を  
伝えたいという思いが湧き起  
こっていました。発信手段が検  
討されましたが、今のような  
インターネットの時代ではなく、  
ワープロも未発達、特別な財源  
もない中、できたことはチラシ  
的な情報誌の発行でした。そし  
て誕生したのが情報誌「コミュ  
ニケーション」です。動物園と  
市民、人と動物との交流を願  
い、スタッフみんなで決めた名  
称でした。現代版の立派な印刷  
ではなく庁内印刷でのスター  
ト、内容も未熟なものでした  
が、現場感覚にあふれた誌面は  
好評でした。スタートから30年  
以上継続し2020年には100  
号を達成、この50周年記念号  
で通算106号を迎えます。各担  
当スタッフが懸命に取り組ん  
だ現場での仕事、動物園の歩み  
が記録された貴重なものです。

1997年の「ふれあいラン  
ド」完成で動物園の注目度や人  
気はますます高まり、園の活動  
は次第に広がりを見せ、報道関  
係等との調整などの仕事も増  
えていきました。動物園経営に  
は現場感覚での情報発信が不  
可欠であり、情報の加工や出し方などの仕事は重要さが増す  
中、2002年に普及的な仕事も含めた普及企画を担当する職  
員を配置しました。この年はあの義足のキリン「たいよう」の  
出来事もあり、新担当は大変忙しいスタートとなりました。



1990年 6月号(第1号)



1992年 No.1号



2020年 No.100号

普及企画担当は2012年からは企画広報担当に名称を変  
え、広報とともに営業企画、企業やマスコミ等との対外折衝  
など幅広い業務を担う動物園営業の最前線業務を展開する  
ようになっています。ネット時代の情報発信はホームページ  
や、SNS等も盛んになっていますが、原点にあった情報誌「コ  
ミュニケーション」制作は記録保存と動物園活動の普及とい  
う重要な役割を担っています。保存された記録は、各種活動  
の後の検証でも重要な意味を持つものです。

動物園活動の発信がより一層盛んになる中、別の角度から  
発信してくれる方が登場しました。タレントの高木美保さんで  
す。2015年春、縁あって名誉園長にご就任いただき、2023年  
春までの8年間、いろいろな機会に動物園にお越しくださり、  
来園者と明るく笑顔で親しくふれあっていただき、これまで  
の情報発信とは違った空気感を発信していただきました。

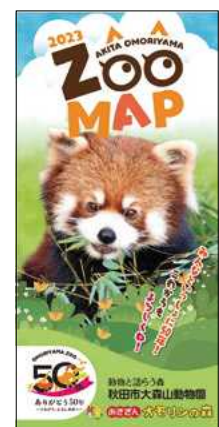
様々なカタチでの情報発信は、市民の大森山への関心を引き  
つける一つの力となってきましたが、動物園を伝えたいとい  
う原点を見失うことなく  
将来も展開して  
いきたいもの  
です。



2015年 高木美保名誉園長 就任式



高木名誉園長と来園者とのふれあい



ポスターや園内マップの作成も